

<p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性</p> <p>1節 世界の地形と人々の生活</p> <p>2節 世界の気候と人々の生活 追究事例 自然①・②</p> <p>3節 世界の言語・宗教と人々の生活 追究事例 宗教①・②</p> <p>4節 歴史的背景と人々の生活 追究事例 歴史①～③</p> <p>5節 世界の産業と人々の生活 追究事例 産業①～③</p>	<p>●世界各地の多様な生活文化への理解が深まるよう、写真や模式図、図表を豊富に用いて視覚的に理解できる構成にした（第1号）。</p> <p>●世界各地の生活文化への理解が深まるよう、自然環境や言語・宗教、歴史的背景、産業など、様々な観点からとらえられる構成にした。その上で、さらに具体的に考察を深められるよう、多数の地域事例（追究事例）を取り上げた。また、本文の導入では、生活に関わる具体的な例を切り口にして記述した（第1号）。</p> <p>●地球環境問題を解決する能力を養うとともに、環境を保全することの重要性を理解し、環境保全に参加する態度を養うことができるよう、自然環境の記述を重視し、地形や気候といった自然条件が人々の生活を形づくる重要な要素の一つであることが理解できるよう配慮した（第4号）。</p>	<p>p.46-144</p> <p>p.46-144</p> <p>p.46-75</p>
<p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>2節 地球環境問題</p> <p>3節 資源・エネルギー問題</p> <p>4節 人口問題</p> <p>5節 食料問題</p> <p>6節 都市・居住問題</p>	<p>●持続可能な社会の形成に参画する態度を養うことができるよう、地球環境問題や資源・エネルギー問題、食料問題など、現代世界が抱える課題について具体的な事例を数多く取り上げた（第3号）。</p> <p>●先進国と発展途上国の違いなどの地域的差異をとらえられるよう、地図やグラフを豊富に掲載した（第1号）。</p> <p>●異なる立場の相手を尊重し、ともに協力する態度を養うことができるよう、様々な地球的課題について、先進国や発展途上国といった立場や環境の異なる事例を複数取り上げた（第3号）。</p> <p>●持続可能な社会を形成するために、生徒が主体的に解決策を考えて実践する態度を養うことができるよう、諸課題の解決に向けて自分たちができることを考える特設「持続可能な社会づくりに向けて」を設けた（第3号）。</p> <p>●地球環境問題を解決する能力を養うことができるよう、さまざまな環境問題についての解決の取り組みを丁寧に解説した（第4号）。</p> <p>●日本の伝統と文化を愛する態度を養うことができるよう、世界的な視野からみた日本の特徴を紹介するコラム「世界の中の日本」を随所に設けた（第5号）。</p>	<p>p.146-187</p> <p>p.147,150, 152,154,156, 158,164,166, 168,174,178, 180,182,186, 187</p> <p>p.153,155, 162-163, 170-171, 176-177, 184-185</p> <p>p.148-149, 156-157, 164-165, 172-273, 178-179, 186-187</p> <p>p.150-157</p> <p>p.151,161, 169,175,183,</p>

<p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p> <p>1節 日本の自然環境</p> <p>2節 地震・津波と防災</p> <p>3節 火山災害と防災</p> <p>4節 気象災害と防災</p> <p>5節 自然災害への備え</p>	<p>●自然災害への対策が地域で異なることが理解できるよう、具体的な地域事例を取り上げ、各地の取り組みを示した（第1号）。</p> <p>●自然災害の被害を軽減するために協力し合う態度を養い、自然災害による被害を防ぐことができるよう、日ごろからの協力や救助体制の整備が大切であることを本文や図表などで丁寧に解説した（第3号）。</p> <p>●我が国の伝統や文化を尊重する態度を養うことができるよう、防災に関わる知恵が昔からの日本人の生活のなかにみられることについて、コラム「今も生きる先人の知恵」で紹介した。特に自然災害の多い地域で暮らす人々が、そこで暮らすために様々な方法で防災に取り組んできたことを理解できるよう丁寧に解説した。（第5号）。</p>	<p>p.196-197, 202-203, 208-209 p.214</p> <p>p.195,201, 207</p>
<p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>1節 生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>●自ら発見した疑問や課題を多面的・多角的な視野から考察する態度を養うことができるよう、調査テーマの設定方法や現地調査の手順、発表方法について具体的なレポートとともに提示した（第1号）。</p> <p>●思考力・判断力・表現力を養うことができるよう、自分の考えを加えて、まとめたり発表したりする言語活動を示した（第2号）。</p> <p>●持続可能な社会の形成のために主体的に参画する態度を養うことができるよう、身近な地域にはどのような課題があり、その課題に対してどのような解決方法が考えられるかについて、調査結果のまとめや発表の場で意見交換を促す内容とした（第3号）。</p>	<p>p.220-227</p> <p>p.226,227</p> <p>p.226,227</p>
<p>4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p>(1)すべての生徒に読みやすい教科書</p> <p>①色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮した。</p> <p>②本文や側注、キャプションなどの文字については、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UD フォント)を使用した。</p> <p>(2)環境に優しい素材と堅牢な造本</p> <p>①紙は環境に配慮した森林認証紙であり、かつ裏写りがしない用紙を使用した。</p> <p>②インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキを使用した。</p> <p>③使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりにした。</p>		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-83	高等学校	地理歴史科	地理総合	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地総-703	高等学校 新地理総合		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●グローバル化する国際社会に主体的に参画するために必要な資質・能力, 平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を育成できる教科書となるよう以下の点に配慮した。

1. 日本や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さを学べる教科書

- ・第2部第1章では, 地形や気候, 言語・宗教, 歴史的背景, 産業と人々の生活の関わりを取り上げるとともに, 事例を選択して学習できる「**追究事例**」を設置し, 世界各地の多様な生活文化への理解を深められるようにした。「追究事例」については, 世界の様々な地域の事例を数多く取り上げ, 生徒自身の生活圏の課題などを踏まえながら, ふさわしい事例を学習できるよう配慮した。
- ・世界的な視野からみた日本の特徴を理解できるよう, コラム「**世界の中の日本**」を随所に設けた。

2. 持続可能な社会づくりに参画する態度を養う教科書

- ・第2部第2章では, 地球的課題に対する世界の現状をとらえるとともに, 持続可能な社会づくりに向けて自分たちができることを考えるための特設「**持続可能な社会づくりに向けて**」を設けた。SDGs と結びつく内容にすることで, 生徒が様々な課題を身近なものとしてとらえられるよう配慮した。
- ・第3部第1章では, コラム「**今も生きる先人の知恵**」を随所に設け, 持続可能な社会をつくるための見方や考え方が, 昔からの日本人の生活のなかにもみられることを理解できるようにした。
- ・第3部第2章では, 生徒自身が生活圏にみられる課題を解決できるよう, 調査方法を丁寧に解説した。

3. 地理的な見方・考え方を働かせながら考察できる教科書

- ・各章や節の冒頭では, 「場所」「人間と自然の関わり」など, 着目すべき視点を踏まえた主題を設定し, 地理的な見方・考え方を働かせながら学習できるよう配慮した。
- ・各項(見開き)には「**学習課題**」を設定し, どのような点に着目して学習を進めていけばよいかのわかりやすくした。
- ・各節末には「**節のまとめ**」, 各項末には「**確認**」と「**深い学び**」のコーナーを設け, 地理的な見方・考え方を働かせながら学習内容をまとめたり, 説明したりする活動を充実させた。

4. 資料の活用を通して思考力・判断力が育成できる教科書

- ・図表や写真を充実させるとともに, 読み解きを促す「**読み解き**」を随所に設け, 資料の比較や関連付けなど, 資料の活用を通して思考力・判断力が身に付くよう配慮した。
- ・地図帳の活用を促す「**地図帳**」のコーナーを随所に設けた。

5. 地理的スキルを習得できる教科書

- ・地理的スキルを習得する特設「**SKILL**」を随所に設けた。特に地図や地理情報システムに関わるスキルを充実させ, 習得したスキルについては第3部第1章など, 随所で活用できるようにした。
- ・情報をまとめたり表現したりするスキルを重視し, 「白地図による地域の特徴のまとめ方」「関係図によるまとめ方」「災害発生時の行動計画の作成」などのスキルを習得できるようにした。

6. 現代世界の地理的認識を深められる教科書

- ・本文は平易に記述するとともに, 随所に本文を補完する「**用語解説**」を配し, 理解が深まるようにした。
- ・世界全体や州, 国, 都市など, 様々なスケールで各地の生活文化や地球的課題を考察できるようにした。
- ・脚注には「**Key Words**」を配し, 重要な学習項目が何かを一目で確認できるようにした。

2. 対照表			
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1部 地図でとらえる現代世界			
第1章 地図と地理情報システム	A (1)		
1節 地球上の位置と時差		p.6-9	1
2節 地図の役割と種類		p.10-26	3
第2章 結び付きを深める現代世界	A (1)		
1節 現代世界の国家と領域		p.28-31	1
2節 グローバル化する世界		P.32-42	3
第2部 国際理解と国際協力			
第1章 生活文化の多様性と国際理解	B (1)		
序説 生活文化の多様性		p.44-45	1
1節 世界の地形と人々の生活		p.46-59	4
2節 世界の気候と人々の生活		p.60-77	5
追究事例 自然①・②		p.78-85	2
3節 世界の言語・宗教と人々の生活		p.86-89	2
追究事例 宗教①・②		p.90-101	2
4節 歴史的背景と人々の生活		p.102-103	1
追究事例 歴史①～③		p.104-119	3
5節 世界の産業と人々の生活		p.120-125	3
追究事例 産業①～③		p.126-144	3
第2章 地球的課題と国際協力	B (2)		
1節 複雑に絡み合う地球的課題		p.146-149	1
2節 地球環境問題		p.150-157	3
3節 資源・エネルギー問題		p.158-165	4
4節 人口問題		p.166-173	4
5節 食料問題		p.174-179	3
6節 都市・居住問題		p.180-188	4
第3部 持続可能な地域づくりと私たち			
第1章 自然環境と防災	C (1)		
1節 日本の自然環境		p.190-193	1
2節 地震・津波と防災		p.194-199	3
3節 火山災害と防災		p.200-205	3
4節 気象災害と防災		p.206-211	3
5節 自然災害への備え		p.212-218	3
第2章 生活圏の調査と地域の展望	C (2)		
1節 生活圏の調査と地域の展望		p.220-227	4
			計 70 時間